

会 議 録

会議の名称	令和3年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会
開催日時	令和3年11月26日（金） 午後4時00分 開会 午後5時28分 閉会
開催場所	オンライン会議ツール「Zoom」、 上中条青少年センター 3階 会議室
出席者	三川俊樹（部会長） 福井齊 内田正俊 廣瀬憲吾 越智聡 嶋田潤一 桑本由利子 明瀬秀憲 平松克一 藤森潔文 浦野祐美子 【計11人】
欠席者	角谷典計
事務局職員	松本教育総務部次長兼社会教育振興課長 稲角社会教育振興課指導育成係長 山口社会教育振興課主査 【計3人】
開催形態	公開
議題(案件)	付託事項の検討 ・青少年健全育成運動重点目標の取組状況 ・ほっとけん！アワードの選出 ・青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【 開 会 】
松本課長	【 あいさつ 】
事務局	委員出欠状況について報告。議事進行を三川部会長に交代。
三川部会長	付託事項の検討についての1点目、「青少年健全育成運動重点目標の取組状況」を議題とする。この件については前回の専門部会からの継続案件となっており、事務局からの説明を求める。
事務局	<p>資料1「令和3年度茨木市青少年育成のための「重点目標と取組状況」(案)」は、専門部会での検討結果を冊子にまとめたものであり、青少年問題協議会に報告した後、市内の各青少年健全育成団体や小・中学校等に配布している。</p> <p>目次のとおり、青少年健全育成重点目標の解説や取組状況、青少年団体の活動状況、「ほっとけん!アワード」、青少年対象の行事实績、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割、構成団体や機関の紹介をした冊子となっている。</p> <p>前回の専門部会では、時点校正中の冊子を資料として示した。今回は、冊子全体の構成や前年度からの修正点、時点校正中の内容について示したいと考えている。</p> <p>1ページでは、茨木市青少年健全育成運動重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で重点目標を意識し、取り組んでいただくことを目的に、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただくこと、さらに、この目標を踏まえ、家庭、学校、地域、行政機関が具体的な取組を行い、青少年の健全育成に寄与することについて呼びかけをしている。</p> <p>2ページでは「子どもの発するSOSのサイン」の種類を記載している。「ネット世界」が原因のサイン例について、子どもが大人から見えないところでネットトラブルに巻き込まれるケースが近年増えており、後ろめたいことがある場合にネットで何をしているのかを隠そうとすることがあるので、SOSのサインの1つと考え追加した。</p> <p>3ページでは、子どものSOSのサインに対する大人の接し方や心がけ、見守りの必要性について記載をしている。</p> <p>4ページでは、青少年のインターネット利用時間の増加及びSNSに起因する事案の被害児童数の推移をグラフで示し、最新の令和2年度のデー</p>

タに更新している。

5 ページから 6 ページでは、青少年に関する相談、連絡機関を紹介している。各相談機関の役割や担当は異なるが、青少年の SOS を広くキャッチできるように、様々な機関を掲載している。連絡先等については、事務局にて分かる範囲で更新をしているが、関係機関に最新の情報を確認予定である。

7 ページから 12 ページにかけては、青少年健全育成関係団体の行事に関する自己点検アンケートの集計結果や活動状況について、10 月 31 日時点で更新した。青少年健全育成補助事業について、前回の専門部会で示した 7 月 31 日時点で 88 行事だったものが 10 月 31 日時点で 92 行事となり、4 行事のみの増加である。

アンケート項目への回答傾向については、4 行事の増加のため、前回の傾向からは大きく変わっていない。

要約については、9 ページの「アンケートのまとめ」に記載している。

11 ページでは、屋内・屋外での行事の計画状況を示している。令和 3 年度の行事については、令和 2 年度と比較すると約 27% の減少となり、屋内行事の減少が目立っている。

13 ページから 14 ページにかけては、地域で活動する様々な団体に向けて地域行事やイベント等を開催する際のチェックリストを掲載している。こちらは青少年健全育成事業の補助対象の団体にも送付している。

15 ページには、各青少年健全育成団体の感染拡大防止を踏まえた活動事例を掲載する予定である。現時点で掲載しているものは、前年度の内容であるため、今後、各協議会や団体に校正等を依頼する予定である。

16 ページは、コロナ禍での本市の青少年健全育成の新たな取組として、オンライン会議の推進や野外活動センターにおける取組等を更新している。同ページの下段では青少年問題協議会からのメッセージを掲載している。

17 ページから 18 ページにかけては「ほっとけん！アワード」の紹介をしている。この後の議事でもある、「ほっとけん！アワード」の選出結果により、大賞や奨励賞の行事内容を掲載し、好事例を地域に発信することを考えている。

19 ページは「ほっとけん！アワード」の実施要領、20 ページは審査基準である。

21 ページから 24 ページは、令和 2 年度分の青少年健全育成事業補助金の対象行事を掲載している。現在、既に発行している冊子については、令和 2 年度の 12 月時点までの行事の実績であったので、実績が確定している現段階において改めて令和 2 年度分の全行事を掲載した。

25 ページから 28 ページにかけては、令和 3 年度の 11 月時点での行事を掲載している。冊子の完成版の作成に向け、できる範囲での時点校正をしていく形となる。また、この 2 年間では、コロナによる中止が非常に目立っていることがわかる。

	<p>29 ページは、育成者対象の行事として、青少年健全育成研修会の報告を掲載している。令和2年度は、当青少年問題協議会の委員である福井先生から思春期の心の特徴や自己肯定感を育む教育実践例について講義をいただいた。今年度の研修については、来年の3月を予定しており、冊子の内容を更新する。</p> <p>30 ページから 34 ページにかけては、青少年問題協議会の設置根拠や、経緯、関係図、条例、直近2年分の議題、委員名簿を掲載している。</p> <p>35 ページから 36 ページにかけては、青少年問題協議会の役割や参画団体の活動内容について関係団体や市民に周知するために、各団体の活動や行事等を紹介している。記載内容については、令和2年度版の内容を一旦転記しているが、今後、内容を更新する予定である。</p> <p>37 ページでは、青少年問題協議会関係の啓発事業を掲載している。コロナによる中止が目立つ状況にはなっているが、中にはコロナ禍で実施したものもあり、今後につなげられるように継続を図ってまいりたい。</p> <p>資料2は、青少年健全育成重点目標リーフレット（案）である。これは、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成関係者に配布し、年度によって内容も更新している。背景やタイトルの色について年度の区別をつけやすいように変更する。また、相談機関について、内容の確認と更新を行い、中面に掲載している写真も変更する。裏面の中ほどに記載の「ネット世界で」という部分は、資料1の冊子の2ページとリンクさせているので、冊子に追加した文言を、こちらにも追加することを検討している。</p>
三川部会長	重点目標の取組状況は前回とあまり変わっていないと理解したが、よろしいか。
事務局	仰るとおり、特に変わりはない。2年前までは、行事等も盛んに行われていたが、前年度にコロナ禍で行事が減少してから、傾向は特に変わっていない。
三川部会長	10月に緊急事態宣言が解除された後、活動が増えるのではないかと期待もあるが、これから年度末までの見込み等はあるか。
事務局	<p>青少年健全育成団体が年度当初に1年間の実施計画を立てた時点で新型コロナウイルスが流行していたこともあり、下半期の見込みがまだ立っていなかったところもあろうかと思う。</p> <p>今後、行事が増えてくる可能性はあると思うが、下半期の行事を計画していない団体もあろうかと思うので、大幅な増加はまだ見込めないといえる。</p>
三川部会長	年度当初には9月末まで緊急事態宣言が長引くとはあまり予想できなかったり、これだけ急激に感染者が出るということも想定が難しかった。今年

	<p>度は年度当初に計画した行事を実行できないと考えていた団体も、今後は行事の実施に向けて期待を持ち、準備を始めるところもあるかもしれない。今後は状況や内容が変わってくる可能性があるため、事務局で情報収集に務めていただきたい。ここまでの内容について、意見や質問はあるか。</p> <p>< 質疑等なし ></p> <p>三川部会長 次に、付託事項の検討についての2点目「「ほっとけん！アワード」の選出」についてを議題とする。</p> <p>この件については一昨年まではこの専門部会で当該団体よりプレゼンテーションをしていただいたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のために書面審査としている。</p> <p>今回も書面審査になるが、「ほっとけん！アワード」の対象となっている行事について各協議会代表者から補足説明をしていただいた後、本日ご出席の委員の皆様から審査をいただき、大賞「ほっとけん！アワード」、及び奨励賞の決定を行う。</p> <p>では、事務局より説明を求め、その後、各代表者より補足説明を願う。</p> <p>事務局 資料3の1ページ目に記載されている4つの協議会、小学校区こども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年指導員会からそれぞれ行事の推薦をいただいた。一方、小学校区青少年会育成会からはエントリーがなかった。今回の専門部会において、この4つの行事に対し大賞を1行事、奨励賞を3行事選定するため、委員の皆様には採点をお願いしたい。</p> <p>「ほっとけん！アワード」の決定方法について、今年度からは専門部会にて決定までを進め、青少年問題協議会に報告する形としたい。</p> <p>前回の専門部会において、委員より、コロナ禍を乗り越えて行事を実施したことに関し、項目を増やしてはどうかという趣旨のご意見をいただいた。この点について、エントリーシートの下段に「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点」という欄を新たに設けた。</p> <p>これより、事務局から各行事の概要やアピールポイントを説明し、次に、推薦母体の各代表者から補足説明をいただき、質疑応答の時間を取り、採点をいただく。既にお手元の採点表に採点を下書きされている場合は、説明や質疑応答を踏まえ、改めて点数を見直していただき、この流れを4つの行事に対して繰り返す。なお、採点の際、立候補団体の属する協議会の代表委員は、他の協議会に属する団体行事のみに採点をいただく。</p> <p>会場参加の委員については4行事分をまとめて採点表を回収させていただき、オンライン参加の委員については11月30日までに事務局へ採点表をメール等で提出いただきたい。後日、事務局にて集計を行い、結果を報告させていただきます。</p>
--	---

説明順は、1番目が小学校区こども会育成連絡協議会、
2番目が小学校区青少年健全育成運動協議会、
3番目が中学校区青少年健全育成運動協議会、
4番目が中学校区青少年指導員会とする。

それでは、1番目の行事の説明に移る。

春日小学校区こども会育成連絡協議会の「春日小校区校こ連35周年記念イベント、ハロウィン写真コンテスト「伝える学び」」は記念事業として470人の参加があった。令和2年11月7日から令和3年1月25日まで約2カ月半にわたる期間で継続して実施した。

エントリーシート中段に記載の「重点目標の「大人が気づいて声を掛け合う関係づくり」を意識した取り組み」において、「青少年の相談」についてはハロウィン写真コンテストに参加しやすくするためのアイデア募集や、あったらいい、欲しいと思う賞の意見集めをした。

「青少年の希望を取り入れたか」に関しては、ハロウィン写真コンテストの応募部門を増やしたり、作品に合ったネーミングの賞を設けたり、欲しい図書カードを参加賞に選定する等により、青少年の意見を取り入れた。

「青少年の役割」については、ハロウィンに関しては審査員の先生や地域の方に投票してもらえるようにし、伝える学びに関しては、先生や地域の方へ感謝の気持ちを年賀状で伝えたり、好きなこと、やってみたいことを伝えるカレンダーを作成した。

「青少年への指導と助言」においては、イベントの取り組みを各家庭でサポートし、郵便局からお礼状の書き方の冊子を取り寄せて、書き方や伝え方を学ぶように対応した。

「アピールポイント」が3点あり、1点目にコロナ禍でも学校の先生方や地域の方々とのつながりを持ち続けるための工夫として、コンテストの審査員を担っていただくよう依頼し、賞のネーミングを考える等、楽しめる投票を実施した。また、昔からの風習である年賀状や寒中見舞いをうい、お礼と日頃の感謝の気持ちを伝えるお礼状を送付した。

2点目に、地域貢献や地域交流として、駄菓子屋と交渉し、参加賞を子ども達に渡したり、郵便局からお礼状の書き方の手助けとなる冊子を取り寄せて協力をしてもらった。

3点目に新体制のこども会の紹介と活動への興味付けとして、資料3のA3サイズ参考資料のとおり、表面に当団体の35周年のお礼とイベント報告、裏面に好きなこと・やってみたいことやカレンダーを掲載した記念広報紙を作成した。当広報紙は、新1年生のこども会入会促進や子ども達の姿や良さを伝えるために地域へ配布した。

「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」について、仮装やウォークラリー、クラフト等も予定していたが、コロナ禍のため中止したことから、大人が子どもと触れ合う機会を持ち、コミュニケーション能力も向上できるように「伝える学び」という行事を考え、子ども達の思いや周

	<p>困への感謝の気持ちを見える化できる行事とした。</p> <p>近隣の行事中止や新型コロナウイルスの罹患情報を踏まえた意見については、どのように進めるのが良いか、地域の方の意見や知恵をもらい、柔軟に調整をして行事を実施した。また、LINE等を用い、こども会役員や保護者が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めた。</p>
浦野委員	<p>どちらの団体も同じだと思うが、コロナ禍で活動があまりできなかった中において、春日小学校区こども会育成連絡協議会の35周年を記念して、様々に工夫をして行事を実施し、「ほっとけん！アワード」に積極的にエントリーしてもらえたことを大変嬉しく思っている。</p>
事務局	<p>今の説明について質問はあるか、無ければ採点を願う。</p> <p>次に、西河原小学校区青少年健全育成運動協議会の「子ども防災体験」について、説明する。当行事は令和2年11月21日に実施し、約30人が参加した。毎年のように台風や地震の被害が報道される中で、子どもの頃から少しでも防災に関係する体験の機会を作ることを目的に実施した。</p> <p>「重点目標の「大人が気づいて声を掛け合う関係づくり」を意識した取り組み」については、「青少年との相談」、「青少年の希望を取り入れたか」に関して、行事の企画時点では新型コロナウイルスの影響があり、子ども達との会合は控えていたが、子ども達に安全に楽しんでもらうことに重点を置き検討を重ねた。</p> <p>「青少年の役割」については、開催当日に防災を意識してテントを倉庫から運んでくるリーダー役を担ってもらったり、テントの設営を自分達で実行してもらい、かまどに火を起し火の番をしてもらい等、様々な部分で役割を担当してもらった。</p> <p>「青少年への指導と助言」において、当日は進行を大人が行い、子ども達を安全に見守ることが中心だったが、中学生が積極的にリーダー役を買って出てくれた場面もあり、印象的だったとのことである。また、マッチで火をつけたり、新聞紙で器を作る際、大人が手本を示しつつ、どうやったら上手に行くか等を子ども達が自ら考えて作業できるように、適宜助言した。</p> <p>「アピールポイント」について、新型コロナウイルスの影響下でふるさとまつりをはじめとする各種のイベントが中止となる中、これまでは11月に屋内行事を行っていたものを屋外行事に変え、募集時に人数制限を行う等工夫をした。また、子ども達に防災に触れてもらうという点で成果を得られた他、缶切り無しでも缶詰が開けられる、マッチで火をつけることができる、新聞紙で器を作ることができる、中学生だけでも力を合わせてテントを立てることができる等、行事を通じて「できる」という体験を積める場を設け、青少年の達成感を育んだ。</p> <p>「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」については、感染者が出ないことを非常に気にかけ、マスク着用、アルコール消毒、事前</p>

	<p>の体温測定等を徹底するとともに、行事实施後も2週間程度は参加者の感染の有無を注視した。</p> <p>行事の実施時点では、「子ども達の思い出作りをしたい」という思いが地域にあり、協力を得て行事を実施できた。当日はたまたまうまく行っただけかもしれないという思いもあり、今後の行事については感染予防のため学校から児童に配られているタブレットとインターネット回線を利用させてもらうことができないかも検討されている。</p>
平松委員	<p>コロナ禍で青少年健全育成運動協議会の活動がほとんど無い中で創意工夫をして、行事を実施された。</p> <p>各地域で防災組織が非常に盛んに活動されているが、子ども達を参加させるところは少ないと思う。当団体はできる限り子どもに防災体験をさせるための様々な工夫をし、今後の青少年健全育成運動協議会の活動に大きなヒントを与えたことや、地域の防犯組織とともに、地域で取組むという趣旨や今後の展望等を評価し、当行事を推薦した。</p>
事務局	<p>今の説明について質問はあるか、無ければ採点を願う。</p> <p>次に、西中学校区青少年健全育成運動協議会の「西中校区の集い 誌面開催」について説明する。当行事は、例年、西中学校のグラウンドや体育館を会場にして実施をしていた「西中校区の集い」を広報誌という誌面上で開催する形に変えたものであり、4,000部を発行し、校区内の幼稚園や小・中学校を通じて各家庭に配布した。</p> <p>校区の青少年の心身の発達促進をはじめとする健全育成を推進し、地域の交流を深めることを目的に実施した。PTA、公民館、青少年健全育成運動協議会、青少年指導員等が連携し、ステージ発表や出店等を実施し、地域に根差した行事となっており、12回目となる令和2年度は、コロナ禍で会場に集まって交流することが困難であったため、誌面開催とし、幼稚園、小・中学校、地域団体がつながっていることや、地域の絆を青少年にメッセージとして伝えた。</p> <p>「重点目標の「大人が気づいて声を掛け合う関係づくり」を意識した取り組み」の「青少年との相談」については、西中学校の生徒に相談し、協力を得て校区の絵を描いてもらった。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」については、生徒が描きたいと考えるものをデザインしてもらう等自由な発想に任せ、「青少年の役割」においては、生徒に誌面の構成やデザインを考えてもらった。</p> <p>「青少年への指導と助言」については、企画の構成・イメージをデザインに起こすにあたり、大人が青少年の意見を引き出し、具体的な形づくりができるように助言した。また、スケジュール調整や進捗管理については大人が適宜サポートした。</p> <p>「アピールポイント」については、コロナ禍のため関係者が集まって企画</p>

	<p>推進をすることが困難な中、感染防止に配慮した全く新しい企画として進めた。</p> <p>校区の集いの誌面開催という形式を通じ、西中校区の幼稚園、小・中学校、地域団体と連携して企画を進めることにより、地域との交流や絆を確認するとともに、地域が見守っているというメッセージを青少年へ伝えた。誌面開催にあたっては、青少年に構成やデザインで協力をしてもらい、青少年と協同して誌面開催を完成した。</p> <p>「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」については、コロナ禍のため例年 80 名ほどとなる行事運営関係者の参集が困難だったことが挙げられる。また、他の行事が中止となる中で、学校地域、子ども達を結ぶことのできる行事の実施方法を模索し、各関係者の合意形成に至ることが大変だったとのことである。</p> <p>工夫点として、多人数が集らなくてもできる企画にし、感染につながらないように徹底したことや、学校、PTA、関係団体と調整を重ね、前年度から代表者が交代した団体もあるため、当行事の企画や趣旨を丁寧に説明し、理解をいただくように働きかけた。加えて、運営委員会には書面とともに個別に電話にて協力を依頼し、行事を実施した。</p> <p>行事の企画段階から実施に至るまで一貫して地域の関係者みんなで作り上げるという思いを大切にし、写真やコメントを集め、行事を進めた。</p>
明瀬委員	<p>本来ならばたくさんの団体が参加し、お祭りのような形で実施していたが、コロナ禍では難しい。けれど、地域はつながっていることや絆を発信したいという思いがあり、誌面でお祭りをするという面白い企画にしたことを評価した。</p> <p>ただの報告ではなく、やりたいことや、今までやってきたことを誌面で表現できており、コロナ禍が落ちついた後は、今回の行事を継承し、楽しい集いができるように感じた。</p> <p>広報誌の形態については、観音開きにする等の工夫もあり、非常に面白い。つながりが難しい中、誌面上で集いをするという凝った企画だと思い、推薦した。</p>
事務局	<p>今の説明について質問はあるか。無ければ採点を願う。</p> <p>次に、南中学校区青少年指導員会の「モザイクアート」について説明する。当行事は、昨年度で 12 回目を迎え、約 2,000 人が関わる地域の大きなイベントの一つとなっている。</p> <p>コロナ禍で生活様式が大きく変わり、人とのつながりやふれあいを避ける傾向になってしまった中、モザイクの一つ一つに込めたメッセージでつながりを感じてもらうことを目的に実施した。</p> <p>「重点目標の「大人が気づいて声を掛け合う関係づくり」を意識した取り組み」の「青少年との相談」及び「青少年の希望を取り入れたか」について</p>

はコロナ禍のため実施はされなかったが、「青少年の役割」においてはモザイクの一枚一枚にメッセージを書いてもらったり、「どんなモザイクアートができるかな？」というクイズを企画し、そこに参加してもらった。

「青少年への指導と助言」については、コロナ禍のため特に実施はされなかったが、子ども達が自らメッセージを書くことに真摯に向き合い、顔文字、ハングル、なぞなぞ等、子ども達の生き生きとした感覚でメッセージを表現してくれた。

「アピールポイント」について、例年は、南中フェスティバルのイベントの一つとして、子ども達と一緒にモザイクアートを完成させていたが、コロナ禍では子ども達が直接、参加することが難しいため、メッセージを書いて参加してもらった形に工夫した。

校区内の小・中学校で合計4枚のモザイクアートを作成し、そのうち南中学校ではコロナの終息を願い、アマビエをテーマとした。アマビエの鱗一枚一枚に生徒達のメッセージを書いてもらい、完成したモザイクアートは南中文化祭にて展示した。600名のメッセージは、どれも前向きで頑張ろうというパワーを感じるものだったそうである。また、玉櫛・水尾・葦原小学校では各小学校のマスコットをテーマとし、中学校と同様に児童からメッセージをもらい、モザイクアートの一部とした。

コロナ禍で子ども達との直接のふれあいは難しい状況だったが、たくさんの児童生徒に参加してもらった行事を実施でき、青少年だけでなく大人も元気をもらえる活動になった。

「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」については、周りからの情報以外に、子ども達の反応を把握することが難しく、行事の運営方法等について、これでいいのかと悩んだり、模索することが多かった。また、メッセージ用紙の配布・回収を学校へお願いする形となり、コロナ禍で多忙な教員に負担をかけずに実施できるよう、何度も青少年指導員の中で検討を重ね、協力をお願いした。

モザイクアートクイズの回答ポスターについては、南中学校、玉櫛・水尾・葦原小学校がそれぞれ異なるアートを作成した旨と、「ほかの学校のお友達に何を作ったか聞いてみてね」というメッセージも添え、校区を超えたコミュニケーションのきっかけになるように配慮した。

遠目に見ても分かるように工夫をしてアートを作り、ベストメッセージ賞を設け、児童生徒へのメッセージも併せて掲載した。

藤森委員

他の団体と同様に、コロナ禍で集まることが難しいが、南中フェスタという毎年の恒例行事ができなくなると、青少年のストレスにもなる。中学生だけではなく、校区内の3つの小学校の子ども達も積極的に参加できるアートフェスティバルのような形式で実施した。企画は大人が進めたが、非常にたくさんの子ども達の参加があり、学校にも協力いただき、地域と青少年指

	<p>導員がつながり、行事を開催できた。</p>
事務局	<p>今の説明について質問はあるか。無ければ採点を願う。 集計結果については後日、事務局よりメール等で委員の皆様へ報告する。</p>
三川部会長	<p>前回の専門部会で平松委員からコロナ禍で様々な行事が中止になる中、取り組んだ際の工夫や苦勞等を「ほっとけん！アワード」を通じて評価できるようにしたいという意見をいただいた。当初は、当アワードができるかどうか自体も危ぶんでいたが、このような形で実施できたこと、また平松委員から、貴重な意見をいただいたことをありがたく思う。</p> <p>次に、「付託事項の検討について」の3点目、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。</p> <p>各委員からそれぞれの現場等における青少年育成の現状について報告いただき、課題の共有を図りたい。</p>
嶋田委員	<p>茨木警察署管内で本年に取り扱ったSNSに起因する被害について3点ほど説明する。いずれも中学生が被害に遭ったケースである。</p> <p>1点目は、SNS上で家出したいとつぶやいた女子中学生が、そのメッセージを見た東京都在住の成人男性に誘い出されて家出し、所在不明になった事案である。</p> <p>警察が追跡捜査等を行い、最終的には静岡県で確保され、当男性を誘拐事件の被疑者として検挙した。幸い、怪我や性的暴行は無かったが、一歩間違えば大変なことになっていた。</p> <p>2点目は、女子中学生がSNSで知り合った男性と会話のやり取りを通じて非常に仲よくなり、裸の写真を送って欲しいという誘いに応じて送信してしまったという事案である。</p> <p>このケースでは女子中学生が早期に保護者に相談してくれたので、その画像を回収することで、男性を児童ポルノの犯罪で検挙するに至った。</p> <p>3点目は、男子中学生がオンラインゲームのチャット機能を通じて詐欺に遭った事案である。</p> <p>ゲームを有利に進めるために課金（お金をかけてアイテムを購入すること）ができるが、中学生は財力に乏しい。保護者に分からないように課金させてあげるといったチャットを通じた誘いに応じて、決済サービスを通じて2万円を騙し取られてしまったという事案である。</p> <p>こちらも保護者が気付き、詐欺として現在捜査中であるが、驚いたことにこの犯人も中学生だった。</p> <p>茨木で今年だけでも同様の事案が何件か起こっている。SNSを通じて中学生や高校生が被害に遭っている事実を認識いただき、積極的に子どもの様子を見守り、気付くことで何とか犯罪を防止して欲しい。</p>

<p>浦野委員</p>	<p>8月に予定をしていた、こども会親善スポーツ中央大会が11月27日に行われる。緊急事態宣言が解除された今しかできないと考えるこども会も大変多く、新しい行事をするために、安全共済会の申請に来るこども会も増えている。</p> <p>こども会育成者もこども達に活動を何かしてあげたいという気持ちがあり、子ども達の意見を聞くとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら、学年別にする等、少人数でもできる方向で工夫を凝らしながら進めていこうとしている。</p> <p>学校とも相談しながら何事も事故が無く、スムーズに運ぶように活動をしたいと考えている。</p> <p>来年以降もどうなるか分からないが、もし同じような状況になった場合、コロナ禍で3年目となるので、何かできないかと模索している。</p>
<p>福井委員</p>	<p>コロナ禍で大学では、オンライン授業がメインだったこともあり、昼夜逆転という現象が多く報告されている。SNSを通じた、フリマアプリの詐欺や、極少例ではあるが、ゲームの世界にどっぷりとはまってしまい、自分からは抜け出すことができない事例もある。小・中学生も気を付けた方が良いと感じている。</p>
<p>内田委員</p>	<p>高校生について、アルバイトと部活動が再開され、生徒達に疲れが見える。特にアルバイトにおいて、正社員として大人を雇うと人件費が高くなるため、代わりに高校生の求人が多くなっている。</p> <p>生徒達が一定の金額を必要として、アルバイトをするのではなく、事業者から求められてアルバイトをすることで、想定以上のお金を手に入れてしまったり、他のことができなくなる事例がある。高校生を都合の良いように使うのではなく、本当に仕事を求めている大人を雇っていただきたいと感じている。</p>
<p>三川部会長</p>	<p>付託事項の検討については、本日いただいた意見を次回の青少年問題協議会で報告する。異議はないか。</p> <p>< 異議なし ></p>
<p>事務局</p>	<p>令和3年度茨木市青少年問題協議会は、令和4年の2月頃に開催予定とし、上中条青少年センターとオンラインの併用を検討している。決定次第、改めて通知する。</p>
<p>三川部会長</p>	<p>以上をもって、令和3年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会を終了する。</p>